

2024年度 卒業生調査(卒後1年目、卒後3年目) 集計結果

実施日：2025年2月就職先アンケート送付時同封、同窓会メールより配信

締切日：2025年3月7日

方 法：Formsによるアンケート調査（メールによる説明と協力依頼）

対 象：18期生（卒後3年目）、20期生（卒後1年目）

	卒業生数	回収数	回収率 %
18期生（卒後3年目）	99	10	10.1
20期生（卒後1年目）	95	33	34.7

問1

現在の職種

	18期生 n=10	20期生 n=33
看護師	10	32
保健師	0	1
助産師	0	0
その他	0	0

問2

現在配属されている領域

	18期生 n=10	20期生 n=33
急性期	9	26
慢性期	0	1
老年看護	0	0
小児看護	0	2
母性看護	0	1
精神保健看護	0	0
在宅看護	0	0
公衆衛生看護	0	0
その他	1 (周術期看護)	3 (手術室、画像診断、 成人保健)

問3

本学では卒業時に身につけてほしい能力をディプロマポリシーを掲げています。臨床の現場でこれらの能力を発揮できているかお答えください。

【18期生】

n=10

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない	全くそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	3	5	2	0	0
自己教育力	5	3	2	0	0
チームで働く力	2	4	4	0	0
問題解決力	1	5	3	1	0
看護の専門性を探究する力	1	4	5	0	0

【20期生】

n=33

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない	全くそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	9	10	12	2	0
自己教育力	8	12	12	1	0
チームで働く力	8	17	7	0	1
問題解決力	6	16	9	2	0
看護の専門性を探究する力	4	14	12	3	0

問4

ディプロマポリシーで示される能力以外に、看護専門職として必要となる力は【どのような力】だと思いますか（理由も）。あなたが働いている現場の状況をふまえてお答えください。

さらに、その力を身につけるために【どのようなことを学ぶとよい】と思いますか。

【18期生】

柔軟性

理由：

- ・どんなにいい環境で働いていても、素直さや誠実さがいない人は伸びていない(成長していない)印象がある

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・自分と違う意見も取り入れてみる、新しいことにも積極的にチャレンジする、ミスを嘘で取り繕わないなど、柔軟性を高めるための取り組みについて学ぶと良い

自分の思考を相手が分かるように伝える表現力

理由：

- ・医師への報告や先輩・リーダー看護師への相談などで、自分の伝えたいことを思考を整理して伝える力が弱いと感ずるため。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・状況を把握する力
- ・端的に伝える技術
- ・相手の質問の意図を理解する力

メンタルヘルス、自身をアセスメント・ケアできる能力。

理由：

・日々の看護実践の中で上手くいくことやいかないことが必ず出てくる。その上、我々は人間を相手する。それは患者や家族、一緒に働く仲間たち皆そうである。また、自らも人間であるため、自身の気持ちを上手くコントロールすることが必要である。いい事もあるがそればかりではないため、誰かに八つ当たりされることがや理解が得られないこと、患者がなくなることもある。その中で、自分の気持ちと仕事に上手く折合いをつける必要があると考える。

・自身がストレスに晒された時に起こす言動・思考の傾向は何か理解し、自分に必要な行動や援助は何かを考える必要があると考える。患者さんや家族、チームに対するパフォーマンス向上に繋がると思う。また、知識・技術不足で悩むより、他者とのやり取りで悩むことの方が多く感じた。

・自己教育力に含まれているかもしれないが、学力面だけのように受け取れるため、メンタルケアに対する文言があった方がいいと思う。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・学ぶことは難しいと考えます。
- ・環境が全てだと思われます。どう捉えるか、変換する力を身につけること、自分の心の余裕がなければ、相手に心配りなんてできません。心配りができるような心の余裕を持つ方法をそれぞれ身につける他ないと思われます。
- ・自身のヘルス・メンタルケアを行うに必要な知識。

先輩に萎縮して発言を恐れるより、患者の安全第一で報告・連絡・相談すること、自己表現力

理由：

・1番難しいのが先輩との関わり。

・自身が、相手に迷惑をかけてしまう気を使いすぎたり、言いにくいなど相手の反応に慎重になり過ぎて、反省することが多かった。今現在も、スタッフ間のコミュニケーションに課題を感じている。

・特に新人看護師は上司からの指導もあり、細かいところまで配慮されるが、2年目以降になってくるとある程度業務の流れや患者のケアを把握していることが多い。そのため、業務や処置等曖昧な状態であっても上司からはできていると思われていることもあり、「分かりません。」と自己を表現することができない状況もあると思われる。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・実際にインターンシップに行って生の声を聞いた方がいい。
- ・私はコロナ禍で、臨時実習の期間が少ないときの学生でした。現場のスタッフの前で、自身の意見を言う経験が大切だと思います。また、その後の教員のフォローが良い効果を生み出すと思います。自身の意見に対する責任感から、知識不足の危機感を感じ勉強する意欲を掻き立てることができるのかなと思っています。
- ・コミュニケーション能力、心理学、看護技術等。

積極性

理由：

- ・知識や問題解決能力が向上しても積極性がなければ行動することができないと考える。
- ・実際に現場で自身の考えを述べ、行動する積極性は看護職で必要な力だと感じる。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・自身の考えを発表する場を増やす
 - ・グループワーク等を増やしディスカッションの場を増やす
-

【20期生】

観察力、臨機応変に判断する力、患者を全人的にアセスメントする力

理由：

- ・患者の状態を注意深く観察し、予測してすぐに判断できるような力が必要だと感じた
- ・急変時の対応は慌てたら何もできないから
- ・いざというときに瞬時に判断できる看護師がチーム内に1人でもいると急変対応において患者の予後が変わってくると感じた。
- ・自分に足りない力だと思ったから
- ・患者さんだけでなく家族の方への対応もあり、業務もある中、効率よくその場で対応する力が必要と思った。
- ・患者の状態をアセスメントし、ケアにつなげ評価していくと思うのですが、臨床でその力がとても重要なことに日々気づかされています。学生のときは正直疾患からケアが結びついていませんでした。しかしクリティカルの実習のときに、「だからこのケアが必要なんだ」と根拠やアセスメントと看護ケアが結びついた瞬間がありました。実習だけでなく、日々の講義の中でもアセスメント力を鍛えられれば良いなと思っています。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・急変時の対応等を事前に知っておくことが大切。
 - ・まずは基礎的なところを勉強して疾患に対する症状の観察をしていくことが必要となる。
 - ・学生のうちはきちんと基礎的な部分を学ぶと良いと思う。基盤があるのとないのでは看護師になってからの知識の身につけ方が違うと思う。
 - ・優先順位の付け方を学ぶ。
 - ・学生の頃は記録を書くのに必死になっており、アセスメントもそこから出てくるリスクも十分ではなかったように感じます。グループワークの中で自分の意見を発言できる機会をより多く持てたらいいと思います。疾病と治療は、病態生理、人体の構造と機能が学生時代、苦手分野だったのですが、そこがとても重要なため、現在も勉強しながら日々の看護に励んでいます。
 - ・患者のリスクアセスメントを演習等で身につけ、どのように対応するべきかを考える機会を作る。
-

忍耐力 コミュニケーション力 協調力

理由：

- ・社会人として必要な能力であるため
- ・急性期、慢性期であっても日常とは違う生活を強いられる環境でその人らしさを尊重出来るような環境作りや苦痛を緩和できる力が必要になると思うから
- ・カルテに書かれている情報だけでは、看護を展開することが難しいことも考えられるからです。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・シュミレーション研修など
 - ・さまざまな人と関わり、人と話すことに対する苦手意識を減らせるように努力しています。
-

実践力、看護技術力

理由：

- ・自己研鑽による知識の習得も必要であるが、見て学び、体験することで自信につながる。
- ・いざ臨床にでてみるとできないことが多い

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・看護ケアや治療内容の理解、その必要性を自己学習で学ぶ
-

多重課題に対する思考能力、多重課題を効率的に遂行していくための優先順位付けを行う能力

理由：

- ・多くの患者を見る上で、効率よく多くの仕事を時間までに終わらせることが大切だから
- ・日々の業務がとても忙しく、多重課題をどう効率よく遂行していくかをとても求められる。1人の患者さんに使える時間も限られており、業務とケアをうまく進めていくことにとても難しさを感じている。
- ・優先順位を考えながら対応することについて、患者の訴えや緊急・重症等を天秤にかけて、最善の対応を選択する場面が多いため。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・まず看護師という仕事がどんな仕事なのか、現実を知って実習では看護技術をたくさん実践させてもらうことが大事だと思う
- ・学生の間に大変だけど最後の統合実習等では2人を受け持つなどして、優先順位づけの難しさや業務を効率よく行うために現場がどんな実践をしているのかを知るのも良いのではないかなと思う。
- ・先輩に報告・連絡・相談する重要性(その仕方も含め)です。

ストレスコントロール、メンタルヘルス、自己コーピング能力

理由：

- ・看護師一年目は余裕もなく精神的に病むから
- ・心身の健康を管理していかないと、体調を崩したり、気持ちが悪くなったりする印象です。（現に同期は約10人辞めています。）頑張りすぎずに、上手くメリハリをつける力が大事だと思います。
- ・患者、患者家族、看護師、医師、理学療法士、作業療法士など他の職種の方、様々な方と関わることで、多重業務により自然と疲労、ストレスが蓄積してくるため、ストレスに対する自己の行動パターンを分析し、ストレスと上手く付き合う方法を学生の頃から培うことで、身体精神ともに健康的に看護を行うことができると考えるから。
- ・何事もメンタルの安定が基本であり、そのメンタルがあれば職場で生き残っていくために最も必要な人間関係が構築できるから

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・新卒一年目の転職事情
- ・ストレス対処方法を確立する。
- ・相談できる先輩あるいは同期を持つ。
- ・自分の体調の変化を無視せず休む時は休む。頑張りすぎない。きつい時はきついと先輩に伝える。オンとオフをはっきりする。プライベートに仕事を持ち込まない。
- ・新人看護師として働く上で知らないことが多くあり落ち込む場面があるがそれを受け止めて働いていかななくてはならない
- ・自己分析方法を学ぶ。また、学生の間に様々な経験、様々な方との関わりを学ぶこと。
- ・コーピング

報連相ができる力、進んで学ぶ力、自己表示する力

理由：

- ・自己解決・自己判断して、何かを行うと患者さんを命の危機に合わせることになってしまう
- ・忙しい中で先輩に相談するのをためらうことがあったがそれにより患者の安全性が確保できないことがあった。自分がどこでどれだけ困っているのか、協力して欲しいのか自己表示する力は大切だと思う。
- ・患者と関わる際には日頃の何気ない会話からケアや看護に繋げることもある。
- ・先輩Nsと関わる際にはSBARを意識した報告・連絡・相談が必要のため。
- ・自分で考える力も大切ですが、自分で解決しなければいけない、アセスメントできていなければいけないという思いが強く、小さなことでももっと相談したり、話し合ったりしていいんだと働いて感じました。
- ・患者さんが重症であったり、学生の頃とは異なり責任感がより増す中で、病態を勉強しなければいけないけれど日々の疲れもあり中々勉強できないこともあります。リアリティショックもある中で業務や勉強に追われる中で自分のことが後回しになってしまうこともあるからです。

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・わからないことは先輩に相談する。
- ・先輩が後輩に何を求めているのか理解する必要があると思う。また、一年目看護師としての役割を考えることが大切だと思う。例えば、与えられた仕事をミスなくこなすのではなく、与えられた仕事の中で疑問点や時間を要することがあればすぐに相談することができの方が大事であり、相談方法も根拠に基づき自分の考えを含めた上で述べるべき。
- ・先輩Nsの患者との関わりを手本にする。
- ・SBARでわかりやすく患者の情報を伝えられるように練習しておく。

相談する上で自ら発信すること、自分の考えたアセスメントを言語化することが出来ること、チームで働くときに看護師としてはどのようなことが出来るのか、すべきなのを知ることに。

住民さんの立場になって物事を考える力

理由：

- ・保険事業を行う方向性は全て住民さんの健康状態、生活背景、思いなどによって決めるため

どのようなことを学ぶとよいか：

- ・保健指導を行う際に、住民さんの生活背景を聞き取る力
- ・地域診断を行う力

集計結果・評価

【属性】

18期生(卒後3年目)および20期生(卒後1年目)の属性として、現在の職種はほとんどが看護師であり、20期生は保健師が1名であった。配属先は、卒後1年目は33名中26名が急性期で、その他は小児、慢性期、母性、その他3名であった。卒後3年目は10名中9名が急性期、その他1名であった。

【DPの能力について】

ディプロマポリシー(DP)の能力が現場で発揮できていると肯定的な回答が多かったDPの能力は、卒後1年目は【チームで働く力】【問題解決力】、卒後3年目は【自己教育力】【人間の尊厳と権利を擁護する力】であった。肯定的な回答が少なかったDP能力は、卒後1年目、卒後3年目ともに【看護の専門性を探究する力】であった。卒後1年目は、急性期の病棟で多重課題のなかで優先順位の判断が求められるため、チームで働く力や問題解決力がより発揮されていると推察される。卒後3年目では、さまざまな状況に対処している一方で、主体的な学習を継続的に取り組んでいることから自己教育力や、倫理的課題や意思決定支援等に関わる場面を通して人間の尊厳と権利を擁護する力がより発揮されていると推察される。

【ディプロマポリシーで示される能力以外に、看護専門職として必要となる力とは】

卒後1年目と3年目をあわせ「ストレスコントロール力」と「報告・連絡・相談する力（自己表現力）」「コミュニケーション能力」という回答が重複していた。これらは、社会人基礎力（経済産業省,2006）にある「チームで働く力」の能力要素としてあげられている。「自己表現力」については、チームの中で自分の意見をわかりやすく伝えることが重要であるという意見が述べられていた。

【まとめ】

今回の卒業生調査は昨年度と同様に1年目の就職先にアンケートを郵送する際に、卒後1年目と卒後3年目の名簿とQRコードをつけた調査票を配布し、その後同窓会メールより配信した。卒業生アンケート配布後に、数名の卒業生が大学に来訪して現状について報告を受けた。卒後1年目の回収率は34%で昨年と同様の結果であったが、卒後3年目の回収率が10%まで低下した。自由記述では具体的な記載が多く、卒業生の現状を把握することができた。卒後1年目・3年目ともにストレスコントロール力や発信力に課題を抱えているとの回答があり、コロナ禍でグループワークや実習等に制限があったことが影響していると示唆される。

今回も昨年度と同様に就職先アンケートに配布した際に、卒業生数名が退職しているとの情報があった。卒後も継続して支援していくことが重要である。大学で学修するなかでグループワークや実習で自分の意見を述べることを強化していく必要がある。また、今後の看護職としてどのような準備が必要なのかイメージできるのではないかと考えた。今後も引き続き就職先アンケートと一緒に調査票を配布することを継続する。